

中国科学院図書館蔵日本刻本について

孫 容 成

京都大学大学院

北京に本部を置く中国科学院は、1949年11月1日に創設された自然科学の研究を中心とする研究機関であるが、北京海淀区にあるその図書館には、日本刻本が多数所蔵されている。その実状について、2000年11月20日から三日間、劉建輝氏と共に行った調査結果を以下に報告する。

中国科学院館長羅彬によれば、同図書館所蔵の日本刻本は、その由来から、二つの部分に大別できる。個人の寄付や図書館で購入したものと、旧北京人文科学研究所図書館の蔵書を受け継いだものとのことである。なかでも、後者の方が量・質とも見るべきものがあるとのことである。

以下、中国科学院図書館編『中文古籍善本書目』に基づき、同館所蔵日本刻本を整理したので、そのリストを参考に掲げる（資料1、2）。

では、中国科学院図書館蔵日本刻本の主要部分を為す旧北京人文科学研究所図書館の蔵書は、いかなるいきさつで収集されたのであろうか。まず、人文科学研究所及び図書準備処の成立及び性格について触れておく。

北平人文科学研究所及びその附属機関である図書準備処は、1930年代の日本対中文化事業の一環として、北京に開設されたものである。その設立の契機は義和団賠償金の処理であった。その具体的な設置に至るまでには、中日両国の政府間で、幾たびか交渉が重ねられたが、設立の当初から、中国国内で設立に対する反対運動が高まっていただけでなく、設立後も、済南事件の後、中国側メンバーが全員脱退する事態が発生するなど、その運営は必ずしも順調ではなかった。更に、その主要な仕事『續修四庫全書総目提要』に対する評価を含め、関係者の政治的立場なども絡み、人文科学研究所に対する評価は極めて難しいと言えよう。この報告書では、人文科学研究所そのものに対する評価を今後の仕事とすることにし、その成立事情と図書蒐集の特徴についてのみ、簡単に紹介することに留めたい。

1923年3月、国内外の圧力の下、日本政府は米・英などの先例にならって、義和団賠償金の一部を使用し、中国で文化事業を推進することを決定し、『日本対華（支那）文化事業特別会計法』を成立させた。そして、ほぼ同じ時期に対支文化事務局を設置する。

初期の段階では、日本側が事業の主体となり、日本への中国人留学生の養成を中心に進めることを日本側は主張した。そのねらいは日本の勢力を中国内に扶植することにあったことは明らかである。^{*1}

こうした日本の思惑は、当然中国側の反撥を招くことになる。特に、文化事業の範囲や内

容、その運営形態に、反撥が集中していた。そうした中国側の意見をかなりの程度取り入れた形で、24年2月6日に『対支文化事業に関する非公式協議会の覚書』いわゆる『汪一出淵協定』が交わされる。この協定において、図書館、研究所及び博物館を設立することが決められている。これは、反日感情をより激化させないために、政治的思惑から離れた永久的・普遍的事業をという中国側からの主張から辿り着いた結論と思われる²⁰。具体的には、北京に人文科学の研究所及び図書館を、上海には自然科学の研究機関を設立することが決められている。そして、運営方式も、日中両国から各10名、計20名から構成される評議会によるべきことなどが決められている。

『汪一出淵協定』調印後、中国国内では、様々な批判が起こった²¹のにもかかわらず、翌25年に『芳澤一沈交換公文』なる正式協定が結ばれた。そして、同年10月9日には東方文化事業総委員会が北京で成立したのであった。この時の中国側の委員は、柯劭荪（委員長）、鄧萃英、湯中、王樹枏、王式通、王照であり、日本側は入澤達吉、大河内正敏、太田為吉（後、堀義貴に替わる）、服部宇之吉、狩野直喜、山崎直方、瀬川浅之進、大内暢三であった。委員会成立後、合わせて五回の会議が開かれ、うち、27年10月に開かれた第三次総会で、人文科学研究所・図書嚆備処に関する三つの予算書が議決されている。これを受けて、人文科学研究所が王府井大街において正式に設立されたのは、その後の12月20日である。そして、『人文科学研究所暫行細則』が制定され、『續修四庫全書総目提要』、つまり、『四庫全書』に漏れている書籍、乾隆以降宣統末までのすぐれた著作をそれぞれ収集し、著録書目を選定することが、最も主要な仕事として決められた²²。

一方、図書館嚆備処が設立されたのは26年7月のことで、湯中が処長、瀬川浅之進が委員に選ばれている。10月に開かれた第二次総会で、その設立の目的を一般の公共図書館とは異にし、『續修四庫全書総目提要』編纂のためのみとし、名称を図書館嚆備処から東方文化事業図書嚆備処に変更した。そして、第三次総会で15箇条からなる『東方文化事業図書嚆備処弁事細則』が制定され、図書の購入方法については、図書嚆備委員によって蒐集されること、さらに、一部200元以上の書籍については、評議員会の議決を経る必要があることを決めている。また、狩野直喜が瀬川から嚆備委員を交代し、評議員としては柯劭荪、王樹枏、服部宇之吉、王照、賈恩紱、王式通、梁鴻志、江庸、胡敦復、揚策、瀬川浅之進、李盛鐸、傅增湘の13名が選ばれた。

この細則に基づき、1927年11月13日から28年5月13日までの間に、嚆備処は4回会議が開かれ、図書の購入原則や書店から送られてきた本の値段の可否などについて、議論が行われた。

しかし、28年5月に濟南事件が発生し、中国側委員が東方文化事業委員会から一時期全員脱退し、機構は完全に日本側の経営に移ることになったので、図書の購入も必然的に日本側の委員のみによって行われた。31年、中国側が再度参加した後、図書の購入方法に変化があったかどうかについては、不明であるが、とにかく26年から37年までの11年間に、合わせて15420部、165999冊の図書が購入された記録が残っている。そして、これらの書籍を収蔵するために、新しい書庫も作られた。場所は東廠胡同にある黎元洪旧宅で、建築面積1876.44㎡、3階建ての建物が新しく建てられた。この書庫及びその蔵書は、解放後、科学院に受け継がれ、

現在場所を海淀区に移して、保存することになっている。

『續修四庫全書総目提要』編纂のために購入したこれらの図書の大部分は中国の書物であるが、中には朝鮮本と日本刻本も存在する。資料1は日本刻本のリストであるが、中国の書籍を日本で出版した所謂和刻本（15点）よりも、日本の学者が著した書物（54点）の方がはるかに多いのである。日本人の著書を蒐集したのは、恐らく日本側の意見に基づいたものであろう⁵。具体的には、図書準備委員に選ばれた狩野直喜が関与していたのではないかと思われる。具体的にどの本が狩野直喜によって購入されたかを特定できる資料は残っていないが、日本人著書とくにその主要な部分を成す儒学者の著述の蒐集はかなり特徴のあることは明かである。つまり、著者でみると、最も多く著書を集めている伊藤仁斎（7点）、伊藤東涯（8点）、荻生徂徠（7点）をはじめ、ほとんど古学派に属する儒者である。清朝考証学に西方シノロジーの方法を取り入れたとされる狩野直喜が、著書の蒐集に際して、文献を徹底的に検証する実証主義の古学派を中心に行ったのではなかろうか。京都学派の創始者の一人である狩野直喜が他界して、既に50年以上が経過した。そろそろ彼自身を学問の対象にしてもいい時期ではないかと思われる。北京における彼の収書活動もその研究の一資料となることを期待したい⁶。

このように、北京人文研究所の日本刻本は、狩野直喜を中心とする日本側学者が中心となって収集したと思われるが、では、これらの書籍はもともと日本のいかなる所に所蔵されていたのであろうか。それを解明するのに、蔵書印がてがかりになることはいうまでもない。残念ながら、筆者が調査した24部のうち、蔵書印が押されてある書籍はわずか6部しかなくて、そのうち元の所有者の推定に繋がるものは『顯戒論』一部のみであった（資料3）。

江戸下谷にある寿永寺は現存しており、七福神のうちの布袋尊を祭っているお寺である。同寺の沿革については、詳しいことが分からないが、中国に伝存する日本寺院関係文書の調査からスタートした当プロジェクトの報告書として、ふさわしいものと思われるので、最後に掲げることとする。今後の研究の一助となり得れば、幸いである。

注

- * 1. 閣議決定直後に外務省亜細亜局によって作成された「団匪賠償金処分」がそれをよく物語る。
- * 2. 入沢達吉・岡部長景による「入谷博士及岡部事務官支那出張報告摘要」が、日本側に中国側の意見を把握させる上で、大きな役割を果たしている。また、中国側としては、朱念祖を中心に、日本で批判運動を展開していた。
- * 3. 中でも、教育界の対支文化事業＝文化侵略批判説は代表的なものであった。
- * 4. 『十三経索引』と『新字典』の編纂も企画されていたが、『續修四庫全書総目提要』を優先することが、この大会において決定。
- * 5. 狩野直喜の同僚で、京大教授桑原隲蔵が大正13年に書いた「対支文化事業についての希望」（『外交時報』第39巻第1号）の中で、外国人の著書を蒐集する必要性を論じている。
- * 6. 狩野直喜は日本漢文を嫌っていた（『東洋学の創始者たち』吉川幸次郎編、講談社、1976）が、古文辞派については、かなり評価していたことは『漢文研究法』（みすず書房、1980）によって分かる。例えば、同書では徂徠の『辨道』『辨名』は大著述としている（p93）。更に、その徂徠よりも、伊藤仁斎をもっと高く評価していたことは、「仁斎先生二百年会につきて」（『支那学文叢』所収、1973、みすず書房）によって知られる。

中国科学院図書館所蔵日本刻本（●：和刻本、○日本人撰述書籍）

資料1 旧人文科学研究所より受け継いだ部分

		經 部		
○經102 / 225	周易傳義考異九卷	伊藤長胤	寶曆十二年（1762）抄本 伊藤善留校	5(冊)
○經102 / 226	周易經翼通解十八卷	伊藤長胤	安永四年（1775）古義堂刻本	5
○經302 / 122	毛詩品物圖攷七卷	岡元胤	天明四年（1784）平安杏林軒浪華五車堂刻本	4
○經430. 2 / 030	筆記禮記集說十五卷	中村欽	安政（1854～1859）	15
○經710. 2 / 055	論語古義十卷	伊藤維	正徳二年（1712）刻本	10
○經710. 2 / 038	論語古訓十卷	太宰純	元文四年（1739）江都書肆嵩山房刻本	5
○經710. 2 / 056	論語古訓外傳二十卷付録一卷	太宰純	延享元年（1744）江都書肆嵩山房刻本	10
○經710. 2 / 060	論語古傳十卷	小林重恵	寛政（1789～1800）刻本	10
○經710. 2 / 037	論語徵十卷	物茂脚	元文五年（1740）武江書林松本新六刻本	10
○經710. 2 / 057	論語徵十卷	物茂脚	元文五年（1740）武江書林松本新六刻本	10
○經710. 2 / 059	論語徵集覽二十卷 何晏集解 朱熹集注 古義	序一卷 伊藤維 物茂脚 源頼寛輯	寶曆十年（1761）觀濤閣刻本	20
○經710. 2 / 058	論語徵漢十卷拾遺一卷	中根紀	寶曆十二年（1762）京都書林菊屋喜兵衛刻本	2
○經707 / 001	非物篇六卷	五井純楨	天明四年（1784）懷徳堂刻本	
○	非徵八卷	中井積善	同上 合刻本	4
○經740. 2 / 019	孟子古義七卷総論一卷	伊藤維	享保五年（1720）古義堂刻本	4
○經430. 2 / 072	大學定本一卷	伊藤維	正徳三年（1713）古義堂刻本	1
○經430. 2 / 073	大學定本釋義一卷	伊藤長胤	元文四年（1739）刻本	1
○經430. 2 / 074	大學解一卷	物茂脚	刻本	1
○經430. 2 / 075	大學考一卷付録一卷	太田元貞	抄本	1
○經430. 2 / 069	中庸發揮二卷	伊藤維	正徳四年（1714）古義堂刻本	1
○經430. 2 / 070	中庸解一卷	物茂脚	寶曆三年（1753）松本新六藤木久市刻本	2
○經430. 2 / 079	中庸考一卷	昭陽先生	明治二十七年（1894）抄本	1
○經704 / 007	語孟字義二卷	伊藤維	寶永二年（1705）刻本	2
●經927 / 008	清書千字文一卷		正徳五年（1715）刻本	1
○經912 / 032. A	釋親考一卷續編一卷	伊藤長胤	享保二十年（1735）刻本	2
○經912 / 032. B	釋親考一卷續編一卷	伊藤長胤	享保二十年（1735）刻本	2
○經933 / 079	韻鏡開奩六卷	釋宥朔	寛永四年（1627）刻萬治二年（1659）刊	6
○經933 / 081	韻鏡易解二卷	釋盛典	元禄二十年（1699）書林山口茂兵衛刻本	1
○經933 / 088	韻鑑古義標註二卷補遺一卷	釋寂龍	享保十一年（1726）落陽書林秋田屋文臺屋 元文三年（1738）増補	3
○經933 / 082	韻鏡要選集三卷	竹雄元陳	抄本	3
○經933 / 075	九弄辨	釋文雄	寛延三年（1750）刻天明八年（1788）刊	1
		史 部		
●史000 / 112	漢書評林一百卷	凌稚隆	明曆三年（1657）林和泉椽松柏堂刻本	50
●史472. 5 / 008	扶桑隱逸傳三卷	釋元政	寛文四年（1665）銅駝房書肆村上氏刻本有圖	3
●史472. 5 / 009	續扶桑隱逸傳三卷	義堂	正徳二年（1712）刻本	3
○史720 / 038	令集解三十五卷		明治四年（1871）芭蕉園石川介活字刊本	36

○史844/003 ○	度考一卷量考一卷 衡考一卷	物茂卿 物觀	享保十九年(1734)刻本	2
○史844/004	度量衡説統六卷	最上常矩	文化元年(1804)刻本	3
●史761/070	大明律三十卷問刑條例三卷	明劉惟謙	享保七年(1722)刻本	9
○史761/062	法曹至要鈔三卷		寛文二年(1662)落陽二條書肆村上勘兵衛刻本	3
●史570/013	大明一統志九十卷	賢萬安 纂集	正徳三年(1713)弘章堂刻本	60
子 部				
○子010/031	讀荀子四卷	物茂卿	寶曆十三年(1763)刻本	4
○子031/019	古學指要二卷	伊藤長胤	享保四年(1719)刻本	1
○子060/010	復性辨一卷	伊藤長胤	享保十五年(1730)江都書林西華堂刻本	1
○子060/011	辨疑録四卷	伊藤長胤	享保十八年(1733)刻本	4
○子700/132	老子特解二卷	太宰純 宮田明	續天明三年(1783)江都書肆嵩山房刻本	2
○子451/032	傷寒名數解五卷	中西惟忠	安永三年(1774)澄霞園刻本	5
●子452/009	増廣太平慧民和劑局方十卷圖經 本草藥性總論二卷指南總論三卷	陳師文	寛政元年(1789)京都書林刻本	12
●子455/010	小兒衛生總微論方二十卷	宋	抄本	10
○子480/010	扁鵲倉公列傳割解二卷	藤惟寅	明和六年(1769)平安文錦堂刻本	2
○子490/048	漫遊雜記	永富鳳	明和元年(1764)刻本	1
○子522/019	皇和通曆一卷付録一卷	中根璋	正徳四年(1714)刻増修本	1
○子060/012	斥非一卷附録一卷	太宰純	延享二年(1745)江都書肆文英閣青竹樓刻本	2
○子050/080	盍簪録四卷餘録二卷	伊藤長胤	抄本	6
○子031/016	刊謬正俗一卷、附録一卷	伊藤長胤	寛政七年(1795)古義堂刻本	2
●子851/001. b	群書治要五十卷	魏徵	天明七年(1787)尾張刻 25(欠卷四・十三・二十)	
●子851/001. a	群書治要五十卷	魏徵	天明七年(1787)尾張刻 後印本 12(欠卷十三・二十、卷四抄配)	
●子856/005	琅邪代醇編	張鼎思	延寶三年(1675)刻本	12
●子856/012	智囊二十八卷	馮夢龍	刊本	1
○子840/086	野語述説十二卷	松井精	貞享元年(1684)刻本	7
●子951/020	新編群書類要事林廣記十卷	陳元觀	元禄十二年(1699)刻本	9
●子980/021	自號録一卷	宋除光溥	享和三年(1803)刻本	1
○子980/005	新編排韻増廣事類氏族大全十卷		刊本	9
●子951/037	雅餘八卷	羅曰褱	抄本	4
○子031/018	童子問標釋三卷	伊藤長胤	寛保二年(1742)平安文泉堂刻本	2
○子700/034	顯戒論三卷	最澄	元和三年(1617)刻本	3
●子700/011	斷橋和尚語録三卷	宋釋妙倫	元禄十六年(1703)活字本	1
○子700/128	出定後語二卷	富永仲基	延享(1744~1747)刻本	2
○史470. 7/009	本朝高僧傳七十五卷	釋師蠻	寶永四年(1707)刻本	33
●子700/004. 1	一切經音義一百卷	唐慧琳	元文三年(1737)獅谷白蓮社刻本	50
●子700/004. 1	續一切經音義一百卷		延享三年(1746)刻本	5
集 部				
○集291/007	徂徠集三十卷補遺一卷	物茂卿	元文(1736~1740)刻本	20
○集291/008	江陵詩集四卷	釋原資	延享二年(1745)東都書林刻本	4
○集291/010	北禪文草四卷	釋大典	寛政四年(1792)青藜閣刻本	2

資料2 その他

經 部			
○經102 / 3131	古周易經斷五卷	源祐登	政八年 (1796) 刻本 10
●經1192538 - 41	孟子十四卷	趙岐	延享四年 (1747) 刻本 4
●經924 / 4494	廣金石韻府五卷彙集玉篇偏旁形似釋		
	疑文字一卷	林尚葵	元文二年 (1737) 生白堂刻本 6
○經921. 2 / 5250	說文字母集解八卷	井上斐庵	寛保元年 (1741) 刻本 6
史 部			
●史761 / 7290	大明律三十卷問刑條例三卷	明劉惟謙	享保七年 (1722) 刻 後刊本 3
子 部			
○子010 / 1050~7	孔子家語十卷	王肅注 岡白駒補注	寛保元年 (1741) 京師書坊風月堂莊刻本 5
○1192533 - 7	孔子家語十卷 附録一卷	王肅注 太宰純増注	寛保二年 (1742) 江都書肆嵩山房刻本 5
●子010 073 1193177 - 86	荀子二十卷	楊倞注	延享二年 (1745) 平安書林翻刻世德堂六子書本 10
●子010 7227~7	劉向說苑纂註二十卷	關嘉	寛政五年 (1793) 刻本 10
●子021 / 3141	崇正書院翻刻馮貞白先生求是編四卷	馮柯	慶安三年 (1650) 村上平樂寺刻本 4
●子410 / 1032 = 1	重廣補註皇帝內經素問二十四卷	王氷注 林憶校	5
●叢134 / 1142	仲景全書四種二十八卷	孫兆改誤熊宗立句讀	寛文八年 (1668) 京師書坊秋田屋總兵衛刻本 7
○子451 / 2611	傷寒考一卷 附録一卷	山田正珍	安永八年 (1779) 刻本 1
●子430 / 3740 - 4	十四經發揮三卷	滑壽	寶曆十二年 (1762) 皇都書肆山本長兵衛刻本 2
●子452 / 1263:6	孫真人備急千金要方九十三卷目錄二卷	孫思	萬治二年 (1659) 敦賀屋久兵衛刻本 16
●子452 / 1040	唐王 先生外臺秘要方四十卷	唐王	延享三年 (1746) 山脅尚德刻本 24
○子452 9691	古方選	小野常建	寶曆十二年 (1762) 刻本 1
○子452 7644	古方活澁一卷	長野嘉樹	抄本 1
●子456 1183:6	精選治痢神書三卷	張介賓	享保十四年 (1729) 植村玉枝軒刻本 3
○子430 / 7232	歷代名醫傳略二卷	法眼恂	寛永九年 (1632) 刻本 2
●子814 0002~4	淮南鴻烈解二十一卷	高誘注、茅坤評	寛文四年 (1664) 刻後印本 6
●子851 2628	群書治要五十卷	魏徵	天明七年 (1787) 尾張刻 後印本 25(欠卷四・十三・二十)
○子951 3442	和漢三才圖會一百五卷首一卷尾一卷	寺島良安	正徳 (1711~1715) 刻本 81
○子814. 6 / 4034	浄土真宗教典志三卷	玄智	天明二年 (1782) 平安曇華室刻本 1
集 部			
●集230 / 207 / 269729	橘洲文集十卷	寶曇	元禄十一年 (1668) 織田重兵衛刻本 1

資料3 「顯戒論」蔵書印

